

学園だより

No.49
平成31年2月

発行
広島県立広島学園
東広島市八本松町原 10844
電話(082)429-0351



「バレーボールを通して

『やっただけきたー!』

で変わること」

監督 鈴木 優佳

平成三十年十月十八日(木)・十九日(金)に、第四〇回中国女子児童バレーボール大会が、岡山県で開催されました。児童が、六名以上いるのは岡山県のみで、鳥取県・島根県は、合同チームを結成し、山口県と広島県は、職員と児童の混合チームのため、オープン参加の出場となりました。

どの施設も、バレーボールをするには女子児童数が少なく、厳しい状況です。しかし、バレーボールは他のスポーツと比べ、他者との協力なしには成り立たない種目です。

ルール上、同一人物が続けて二回以上ボールに触れることが認められていないため、否応なしに他者との協力が求められます。自分の感情をコントロールすることや、他者と円滑にコミュニケーションをとること

を目標にしている児童たちには、バレーボールは適した種目です。

一日目は強豪の岡山との対戦で、昨年の岡山チームの圧倒的な強さを知っている児童は、緊張を隠せない様子でした。しかし、「大切なのは相手に勝つことではなく、練習してきたことを試合の中でもやり切ること。まずは目の前の一本に集中し、自分に勝つ。」と、いつも言い続けている言葉で子ども達の気持ちが落ち着いてきたのか、試合では、すごい気迫で好プレーがいくつも見られました。力の差はもちろんありましたが、一方的に押されていることはなく、きちんとボールを繋いで、三段攻撃で返球することができました。

仲間のミスにも、「大丈夫。次とれるよ。」と、お互いに声を掛け合っていて最後まで戦いました。強豪を相手にしても委縮することなく、強い気持ちで向き合えるようになったことに、胸が熱くなりました。二日目の合同チームとの対戦では、子ども

達は終始落ち着いて練習通りのプレーができ、初勝利を収めることができました。そのままの良い流れで山口チームと対戦し、一セット目はサーブもアタックもバシバシきまり、気持ち良くセットを取ることでできました。「このまま最後まで!」と、

祈りましたが、山口の闘志に火が付き、二セット目、三セット目と苦しい戦いとなりました。相手の連続好プレーに動揺し、自分たちのプレーに少しずつ歪が出てきました。タイムアウトを取り、立て直しを図りましたが、相手の好プレーは続きます。いつもなら取れる球が取れず、スパイクを打つても、打つても、拾われてしまいいます。いつ気持ちが切れて、投げ出してもおかしくない程苦しい状況でした。しかし、誰ひとり、ミスをした仲間を責めたり、投げやりな態度をとったりする児童はいませんでした。何とかしようとして努力しましたが、とうとう相手のマッチポイントを迎えてしまいました。諦めそうになった一人の児童に対し、キャプテンが「大丈夫、大丈夫。できることをやればいいよ。一点取るよ。」と、声をかけていました。私は、これまで練習の様子を思い出し、涙が出そうになりました。

本園では、冬季は長距離走を実施しているため、五月にバレーボールの練習を開始します。パスの基礎からの練習でした。最初のころは、仲間がミスすると腹が立ち、自分が思うようなプレーができないことにイライラし、仲間が好プレーをして褒められると、おもしろくないというような状態でした。技術面だけでなく、精神面や仲間とのかかわり方についてもたくさん課題があり、毎日毎日課題と向き合ってきました。同じようなことを何度も繰り返し指導し、少しずつ協力できるチームになりました。そして本番では、見ている大人でも、「ここまでか」と思うほど厳しい状況になっても、最後まで戦う姿勢を見せるほどに成長しました。

「やればできる。」と、信じて努力できるのは、挑戦して成功した体験があるからです。日々の練習の中で、小さな「やっただけきた。」の成功体験を繰り返して、少しずつ自信をつけることが、挑戦する意欲や諦めない心を育むのだと思います。

これからも、毎日の生活の中で、新しいことや困難なことに挑戦し、子どもたちと共に「やっただけきた。」を積み重ねていきたいです。

◆中国女子児童バレーボール大会

十月十八日・十九日(岡山県)

Aさんの感想

私は、中国地区のバレーボール大会に出場しました。部活に取組み始めた頃は、体力もありませんでした。しかし、練習していく中で、体力もつき、先生方からアドバイスをもらって行動することで、バレーボールも少しずつ出来るようになっていきました。

大会当日は、緊張やアタックが打てるか、サーブが入るかといった不安がありました。それでも、深呼吸をすることで、自分を落ち着かせてプレーすることができました。大会一日目の岡山県との試合では、二セットとも負けてしまいました。しかし、今回のバレーボール大会へ向けて立てた目標の、サーブを確実に入れて声を出し、チームの雰囲気よくしていくでは、取り組むことができたし、試合は楽しかったです。皆が声を出していたので、雰囲気の良い中でプレーすることができました。

大会二日目は、島根県と鳥取県の合同チームと山口県と試合をしました。合同チームとの試合では、二セットも勝つことができました。山口県との試合では、一セット勝ち、二

セット負けてしまいました。どちらの試合でも、良い雰囲気です。プレーすることができ、目標も達成することができました。雰囲気が良かったのは、声出しをしていたり、お見合いがなかったからだと思います。目標を達成することができたのは、意識をしていたおかげだと思います。この大会では、一本もサーブを失敗することがありませんでした。失敗しなかったのは、練習していたことや、焦らずに落ち着いてきたことのおかげだと思います。とても嬉しかったです。しかし、アタックやネットプレーなどのミスは、何回かしてしまいました。その時は、ミスしたのが申し訳なかったり、悔しかったりしたけど、切り替えて次のプレーをすることができました。

今回の中国地区の大会や、今までのバレーボールの活動をおして、協力することの大切さを知ることができました。協力するというのは、ミスした時のカバー、声かけだったり、仲間と一緒に一つのことをすることだということが分かりました。私は、今まであまり協力するということをしたことがありませんでした。しかし、バレーボールをおして、協力するのは大変だけど、楽しいと

いうことも分かりました。そして、カバーや声かけをすることでチームの雰囲気が良くなったり、プレーをするのが楽しくなることも分かりました。

これからも、集団生活だから協力していかないとけません。その時には、バレーボールで身に付けた、声かけ、カバーなどをしていこうと思います。



駅伝・マラソン部の活動を通して

監督 中野 聖

今年度は、九月一日から駅伝・マラソン部の活動をスタートしました。一月十五日までの約四か月半という短い期間の活動でしたが、この間に中国駅伝・マラソン大会(十一月)、園内・校内駅伝大会(十二月)と二つの大会を経験しました。この二つの大会がある事で、四か月半の間、子供たちは明確に目標を持って、毎

日練習を頑張る事が出来たと思います。そして、積み重ねて努力する事で力が付くという自信、タスキをたぐ責任感、目標を立てて取り組む事など、多くのものを感じ取ってくれたと思っています。そして、私自身も、初めて部活動の監督をさせて頂く事で、多くの事を子供たちから教えられました。

「中国駅伝・マラソン大会」

十一月二日に、東広島運動公園にて中国駅伝・マラソン大会がありました。今回、広島県は主催県でした。駅伝の部では、代表選手五人がチームとなってタスキをつなぎ、二kmを五区間で計十km走ります。駅伝チーム以外の選手は、マラソンの部に参加し、一斉スタートで二kmのタイムを競います。

大会に向けた練習では、二kmのタイムトライアルを週に一回は実施し、スモールステップで目標が持てるように、タイムの検定制度を作りました。子供たちは、先生達の叱咤激励の中、目標を意識してインターバルや坂ダッシュ等の厳しい練習にも取り組みました。当日は、全員がベストタイムで走りました。しかし、駅伝の部では七チーム中の五位、マ

ラソンの部ではメダル無し、という残念な結果に終わりました。閉会式で、他県のチームに拍手を送り続ける広島学園の選手の後ろ姿からは、悔しさがにじみ出ていましたし、私もメダルを取らせてやりたかった、と悔しい気持ちでした。そんな状況でも、「良く頑張ったね」と、声援や拍手を送って下さった家族や関係者の皆様に、子供たちは感謝を感じたようでした。

「園内・校内駅伝大会」

十二月二十日には、園内行事として駅伝大会を開催しました。小学生と女子は二km、男子は三kmの区間を走りました。中国駅伝マラソン大会で駅伝チームに選ばれなかった児童も、今回は全員がチームでタスキをつなぎます。ある児童は、「同じチームのアンカーは、普段から陸上をすごく頑張っている人だから、自分が順位を下げたらいけないと思うと、責任重大と思って走り切りました。」と、タスキをつなぐ責任感を強く感じたようでした。事実その子は、ゴールした後、しばらく動けないほどの力を出し尽くしました。普段は大きな声を出すが苦手な子も、大声で同じチームの選手に声援を送

り続けていました。ベストタイムが出た子は、誇らしげに先生に報告しました。

「子ども達から教えられたこと」

私は、今回初めて部活の監督を任せられました。子どもたちに「速く走れるようにしてやりたい」、「達成感を感じさせてやりたい」と思い、一から陸上の勉強をして、練習計画や指導を考えました。しかし、子ども達にこちらの計画した意図が伝わらず、例えばLSD（長い距離をゆっくり走るメニュー）なのに競争をするように走ったり、逆に手を抜いて走っている事を度々注意する事がありました。悩んだり、先輩職員に相談したりした末、私なりにたどり着いたのは、子供たちに個々の練習の意味を丁寧に伝える事が大切だ、という考えでした。毎日の練習メニューの意味や、筋トレの目的や効果を繰り返し伝えていく中で、練習の取り組みは変わったように思います。ある日、寮で自主的に筋トレをする子どもの姿を目にした時は、目から鱗が落ちる気分でした。私が考えていた以上に、子ども達には「成長したい」と思える力があつたようです。子ども達から教えられたこの経験を、

今後の寮での支援にも活かしたいと思いました。



◆中国駅伝・マラソン大会

Bくんの感想

僕は、学園に来て日が少ししかたっていないくて、マラソンの部活はとても苦しく、面倒だと思って手を抜くことがありました。それでも、マラソン大会には出たいと思っていました。初めての部活は、両手で竹の棒を持って三十分間走るものでした。とてもきつかったです。その後の部活では、きつくて弱音をいっぱい吐きました。でも、今では一・二回ほど弱音を吐くことはあるけど、真剣に走ることができるようになり、二kmのタイムがだんだん速くなりました。だから僕は、マラソン大会に出る時の目標を立てていました。それは、走る間に弱音を吐かずに呼吸を整えて、今までの倍の力を出し切っ

て頑張ることでした。その努力が評価されて、中国駅伝・マラソン大会に出場できることになり嬉しかったです。大会の当日は、とても緊張しました。大会参加者が、五十人ぐらいいて多すぎると思いました。同じ寮の人は、二kmのタイムがとても速くて、駅伝は優勝できるのではないかと思います。他県の練習を見ると速そうな人ばかりいました。小学生のマラソンの部を応援していたら、先頭の人がとても速くてびっくりしました。僕は、マラソンの部に出場しました。一定のペースを保って走っていましたが、中間点を過ぎるあたりからどんどん抜かされて、残念な結果に終わりました。駅伝の部は、マラソンに出場した人よりもずっと速い人ばかりでビックリしました。大会は、男子はメダルが取れずに終わりました。でも僕は、練習のベストタイムは一分だったけど、大会では九分十一秒でした。みんなも、いつもより速かったです。自分では全力を出せたので、目標は達成できたと思います。今回は、本当に良い体験ができたと思います。今までの練習で、これほど嬉しかったことはありませんでした。これからの部活では、自分の全力をだし、

次のマラソンの大会ではもっと走れるように取組み、大会で一位になった鳥取県を抜けるように努力していき、もっといい体験ができるように、これからもあきらめずに走ります。そして、生活も崩さずにやっつけていき、次のマラソン大会に出られるようにしていきます。もっと速く走れるように頑張ります。今日は、楽しかったです。

◆園内・校内駅伝大会

Cくんの感想

僕は、園内・校内駅伝大会に参加して、色々なことを学びました。先生から「一生懸命に走らなかつたら、意味がない。」と、言われました。僕は、この言葉で気持ちが変わって一生懸命に走ってみました。すると、だんだん走るのが楽しくなってきました。この何ヶ月間、厳しい練習を重ねて、とうとう待ちに待った駅伝大会が始まりました。五チームのメンバー発表で、僕はCチームの三区になりました。初めは、とても緊張していました。僕より先にタスキをもらった人がいて、「やばい」という気持ちでいっぱいでした。いよいよ僕の出番が来ました。最初はあきらめていたけれど、走り出すと、先

に行った人を抜かして、一位を目指し、賞状を取ろうと思えました。そうすると、だんだん走る勇気がわいてきて走り続けることができました。みんなが「がんばれー」「そのペース！」と言ってくれ、一定のペースで走ることができました。その結果、僕は十三分三十二秒で走ることができ、三区の中で一位でした。閉会式の時に、三区の区間賞とCチームの中で一位のタイムになった賞状ももらいました。

僕は、この大会で三つのことを学びました。一つ目は、一生懸命に走ることです。二つ目は、チームの皆と協力することです。僕は、チームの仲間と協力し、助け合いながら頑張りました。最後の三つ目は、最後まであきらめずに自分と向き合っていて、仲間たちと協力することです。僕はこのことを守って、一日一日に、意識していこうと思えました。この大会で、最後まであきらめずに走りきったので、これからもあきらめたいと思うことや、辛いことがあると思うので、今まで以上に頑張っていきたいと思っています。寒かったけど、今日は楽しかったです。寮に帰って、みんなでおいしいぜんざいを食べることもでき、とてもうれしかったです。

す。



◆進路講演会

東広島市マツダ会の御協力により、構成企業の職員の方に講演していただいています。

講演内容

- 働くことの意義
- 将来の仕事選びに役立つ、色々な情報
- 将来を見据えた時、今をどのような過ごし方をするのか
- 将来に向けての人生設計に、ヒントになるようなこと
- 中学生のうちに、身に付けておいてほしい事

◆第二回進路講演会

講師

㈱日本パーカーライジング広島工場
インダストリアルプロダクツ
広島営業課
上山 仁課長様

Dさん
・印象に残ったこと
目標を達成させるために、モチベーションを持ち、大きな壁を乗り越えていくことが大切である。

・感想

私は今まで、失敗してきたことを繰り返さないようにしようと、頑張って努力していますが、何回も失敗をしてしまいます。その度に、「もうやりたくない。」「どうせできないし。」と、マイナスの感情ができて、なかなか切り替えることができませんでした。しかし、今日の話聞いて、『大きな壁』があったら、それを乗り越えるために、考え↓体感↓繰り返し返すが、成長の第一歩に繋がることが分かりました。これからの寮生活の中や、学園を退園してからの生活の中で、自分自身のモチベーションを持ちながら、今まで乗り越えられなかった『大きな壁』を乗り越えられるように、今日聞いた事や思ったことを実行していきます。ありがとうございました。

★その他の印象に残ったこと

- 最後の時には、失敗する。でも、あきらめずに挑戦する。
- 自分は頑張っているのにと行って、

周囲のせいにする。箱の中から出るためには、相手のことを考えること。

○目標を達成していくためには、努力することが必要。努力し続けるためには、モチベーションを上げていくこと。

○自分が指摘されたときに、「誰々のせい。」とか、「こんなことでいちいち。」と、自分を正当化して他人のことを言うこと。

○目標を達成することは、意識して行動することよりも大変で難しいこと。



◆第三回進路講演会

講師

(株)日本クライマイトシステムズ本社
工場 システム製造チーム

溝上 季龍様

Eくん

・印象に残ったこと

お話を聞いて、人生の選択肢は自分で人生を決めて、目標に向かって頑張るぞ、ということが印象に残りました。

・感想

自分の学ばれたことを分かりやすく説明してくださり、ありがとうございます。自分で人生を決めて、目標に向かって頑張らないといけないと思えました。そして、先のことを考えて予測して行動をしないと、失敗することになってしまっているので、先のことを考えて行動していきたいです。

Fさん

・印象に残ったこと

「人それぞれ人生の選択肢があり、自分が何を望み、何を得て、何を捨てるのか」というところで、自分自身の力で将来のことを選んでいくのも大切だと感じました。学んだことを活かしていきます。ありがとうございます。

・感想

私は話を聞く中で、「人に頼っていくことの大切さ」や、「進路の選び方の難しさ」について理解することができました。私は、何かする時に周りに頼ることが少なく、自分自

行事等の活動について

◆東広島BBS会によるサマーレクリーション

Gさんの感想

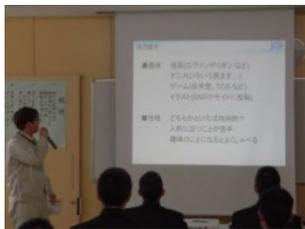
身に負担がかかってしまうことが多くありました。しかし、今回の話の中で、「周りとの協力することで、無駄なく事が進められたり、楽しいことも増える」ということに気づくことができました。今回学んだことをこれから生かしていくために、何か困ったらすぐ周りに頼っていくようにして、自分自身の負担を減らしていけるような努力をしていこうと思います。今回、私たちのために面白くて深い講演会をしてください、ありがとうございます。

★その他の印象に残ったこと

○目標設定が、クラスが一つになるきっかけとなった。

○前もって準備することが大切である。

○最終的に選ぶのは自分自身である。
○将来の夢がもし叶わなかったとしても、諦めずに好きなことを見つけて挑戦する。



私は、初めてサマレクに参加しました。レクリーションゲームは、どれも楽しかったです。その中で、私が一番楽しかったのは、「神経衰弱」です。BBS会員の名前や趣味などが、このゲームで分かりました。他には、「クロスワード」「玉入れ」「金魚すくい」などがありました。「玉入れ」では、思った以上に球を入れることができ嬉しかったです。ゲームの後のお菓子作りでは、ゼリーをトッピングしておいしく食べました。私は、カルピス味のゼリーが一番好きでした。トッピングした物もおいしかったです。今まで、あまりBBS会の人と話をする機会がなかったけれど、今日のサマレクで話をするので良かったので良かったです。BBS会の皆さんが、サマレクのために色々な準備や計画をしてくださいました。楽しい思い出になりました。ありがとうございます。



◆薬物乱用防止教室

講師 県西部東厚生環境事務所・

西部保健所 生活衛生課 梅本様

講演内容

○喫煙・飲酒・ドラッグによる依存
の事態を知り、未然に防止する手
立てを身に付ける。



Hくんが学んだこと

今日のお話の中で、一番印象に残ったことは、「ルールと違う使い方を一回でもすれば、それは薬物乱用になる。」と言うことと、薬物を使うことで、自分だけでなく家族や友達にも迷惑をかける、ということが印象に残りました。実際に薬物を乱用して、普通の人では有り得ないことをするようになった、と聞いて、とても怖いと思いました。どんなことが起こって、自分の体にどのような影響をもたらすのか、ということを詳しく教えてもらいました。とても分かりやすいお話でした。今日のお話を聞いて、薬物乱用は絶対してはいけない、ということ改めて感じました。今後の生活を薬などで壊さずに、また、いつ、どこで、誰から誘いがあるかわからないので、絶対に薬物乱用はしないと強い自覚を持って生活し、もし誘いがあつ

ても断り、薬物は絶対にいけないということを皆に伝えていきたいです。今日学んだことをこれからの生活に生かしていきたいです。

◆ふれあい運動会

Iくんの取組み



僕は、今年が初めての運動会で、広島学園の運動会はどんなものだろうかと、とても楽しみでした。僕は練習の時、行進などもあきらめずに頑張りました。注意を受けることはあったけど、それを次に生かそうという気持ちで取組みました。だから、練習の時から行進が良かったと言われたんだと思います。練習の中でも、僕は一番寮の応援合戦の出し物を頑張りました。エール交換では、団長をやらせてもらいました。僕は、「恥ずかしいな」と思っていたけど、少しでも成長出来たら良いとも思いました。先生や寮生と相談しながら、皆がやりやすくて、お客さんが見ても「カッコイイ」と、言ってもらえるような、エール交換ができればよいと思っていました。ダンスは、自分たちがあまりやりたいとは思わないダンスになってしまったけど、僕たちの目標は、「感謝」で、それを表すには簡単でぴったり合っている

ものが良いと思い、一致団結して頑張りました。

いよいよ本番です。入場行進では、予想以上の人が来ていてビックリしました。応援合戦では、声が小さくならないように、声を出すことだけに集中しました。間違えることなく、今までで一番大きい声が出せたので良かったです。

両親からも、「良かったよ。」「頑張ったね。」と、ねぎらいの言葉をもらい、児童相談所のケースワーカーの先生からも、称賛の声をかけてもらいました。自信はあったけれど、二点差で優勝を逃しました。僕は、とても悔しかったです。でも、皆で一致団結して取り組んだから、点差を二点まで少なくできたのだと思います。

運動会をとおして僕が学んだことは、努力は成功につながるといことです。一人一人が努力した成果が成功につながるといことです。このことを活かし、寮生活では運動会のように声を掛け合って、助け合いながら、皆が自分の課題の克服に取り組めるように生活をします。また、応援してくれている人がいることも忘れずに、期待に応える気持ちで取組みます。

★来園者アンケートより

・平素の生活での思いや姿勢が、よく競技に表れていました。応援合戦の中で、「ここにきてよかった。」という声に、子ども達を応援したいと思いました。

・寮別対抗応援合戦は、チームワークの良さと、そのために練習したであろう頑張り、とても印象深く、元気をいただきました。

・児童・生徒の皆さんの態度に感心しました。少し緊張の面持ちの入場行進、手をしっかり振り、どうどうとした行進に感激しました。



◆平和学習

広島平和記念公園と広島平和記念資料館の見学。語り部の方より被爆体験のお話を聞いて、平和の尊さについて学びました。

Jくんの感想

平和祈念資料館の見学と被爆体験の話聞いて、改めて原子爆弾と戦争の恐ろしさと悲惨さを再認識することができました。平和祈念資料館

では、実際に被爆にあつた実物を見たり、触ったりしました。被爆を実際に体験された、語り部の方が話されるからこそ、伝わってくるものなどがありません。僕たちは、三食ご飯を食べ、両親を戦争で亡くすこともなく、元気に生き、平和に、幸せに暮らせているから、語り部さんが体験された戦争への悲しみや苦しみ、そして怒りは、計り知れないものではないかと思えます。語り部さんは、今でも胸が張り裂けそうで、思い出したくないはずなのに、二度と同じ過ちをしないために、「広島原爆孤児」や「被爆体験証言」の話を、僕たちのためにしてくださいました。

原爆孤児の話は、エピソードの一つ一つに、語り部さんの家族への愛情がすごく伝わりました。だからこそ、命を奪った戦争が、どんなに悲しい事なのかを考えさせられました。

今回の平和学習に参加して、僕も広島県民の一人として、原子爆弾や戦争の悲惨さを語り継がないといけないと思えました。



◆茶道学習

「茶道」を体験することにより、日本の伝統文化や歴史への関心を高める。礼儀やマナーを学び、「おもてなし」の心を学ぶことを目的としています。文化活動発表会では、地域や関係機関の方々に、おもてなしでの交流をしました。

講師 裏千家淡交会東広島市部

佐々木先生

お茶の心得

① 茶席の持ち物、

道具紹介(帛紗・扇・懐紙など)

② 立ち居振る舞い

座り方、立ち方、歩き方、お辞儀

の仕方(座ったとき、立った時)

襖の開け閉め

③ 席入(入席、退席)

④ 扇の置き方

⑤ お菓子のいただき方

⑥ お茶のいただき方

文化活動発表会では、学習の成果を発揮し、高評価を得ました。



◆文化活動発表会

く魅せる

乗り越えてきた自分の成長

○作文朗読より

「また一緒に暮らせるように」

Kさん

私は、広島学園に入園する前に、家で母や兄弟と上手くいかず、八ツ当たりをしてしまい、家に帰らないことで、家族との関わりを避けてきました。そして、先輩や同級生と良くない関わりをし、多くの人への迷惑行為を繰り返していました。夜遊びも、毎日のようにしていました。この時は、「自由がいい」「楽しい」と思っていました。小学生の頃はしなかった良くない遊び方を知り、他の子からやらないことが出来るということになりました。門限も守らなくなり、自由を手にした気分でした。

その一方で、「怖い」「助けてほしい」という気持ちもありました。良くない先輩と一緒にいると、どんな悪い方へ巻きこまれていきました。グループから抜けた人が酷い目にあっているのを見たこともあり、抜けようとする自分もこうなってしまうと思ひ、抜けられませんでした。私の中で一番大きかった気持ち

は、「親に構ってほしい」という気持ちでした。でも、上手な表現の仕方ができず、逆に冷たい視線を集めてしまいました。

非行をする中で、広島学園への入園が決まりました。この時、行きたくもない所に連れていかれて、「大人は、最低だ。」という気持ちがありました。また、施設へ預けられたということから、「母に見捨てられた。」と思ひ、やる気もなく、「どうせ元に戻るし、意味はない。」と思ひていました。でもその一方で、何となく変わる気がして、頑張ろうとも思ひました。早く帰りたい、という思ひも強まりました。この三つの思ひが、混ざり合っていました。入園して間もない頃は、これまで他人からの指示をまともに聞いたことがなく、寮の先生から指示を毎日のように受けて、面倒くさいと思ひていました。コミュニケーションが元々苦手な、小・中学校での良い思ひもなく、集団生活や人が嫌ひと思ひていました。その中で、最初は「すぐ退園できるだろう。」ぐらいに思ひていました。しかし、それが出来ないことが分かり、諦めて「とりあえず退園まで過ごそう」と思ひました。生活していく中で頑張っ

てみると、結果がついてくることが分かり、自然と頑張ろうと思うようになりました。

私は学園に来て、一年五ヶ月が経ちました。その中で、良い方向に変わってきたことが三つあります。一つ目は、生活をする中で寮生に「ありがとう」や「ごめんね」を言われて嬉しくて、私も素直に「ありがとう」や「ごめんね」がすつと言えるようになったことです。二つ目は、最初は整理整頓も掃除も出来なかったのですが、寮の先生から何度も指摘を受け、やる気が沸いて頑張り続けて上手くなったことです。三つ目は、学園では、毎日日本館に行くというルールがありますが、授業を受ける内に、自然と「勉強が楽しい」という気持ちが生まれ、毎日授業が楽しく受けられるようになったことです。「高校に行きたい」、という大きな思いを持つことが出来ました。今まで、「努力してきて本当に良かった」と思いました。

まだ、残っている課題が三つあります。一つ目は、自分の中で負の気持ちを溜め込み過ぎてしまうことです。この課題が、先生や寮生にきつく当たるといふ八ツ当たりとなって現れて、何度も反省になってしま

ました。二つ目は、人を信じられないことです。この課題は、何をしても楽しくないという思いや、息苦しいという感覚を生み出してしまっています。三つ目は、素直になれないことです。この課題は、指摘にイライラしてしまうことや、先生と本音で話ができないということにつながっています。これらの課題を改善するために、報告活動や親との面会の中で、気持ちや本音を少しでも伝えてみる事に取り組んでいます。

退園するまでに、是非身につけておきたいことが三つあります。一つ目は、「人と自分を信じること」です。理由は、人と自分を信じていない分、人と距離を取ってしまうからです。信じられるようになれば、人と適切な距離で接することができるようになると思います。二つ目は、「気持ちのアップダウンをなるべく減らして、一定に保つこと」です。自分自身、心の波に中々付いていけず心が乱れてしまい、寮生や先生にきつく当たるなどの八ツ当たりを繰り返してしまいます。心を一定に保つことは八ツ当たりを防ぎ、生きやすく生活することにつながると思います。三つ目は、「素直になること」です。私は、自分のことを素直に認めてあ

げることができず、自分のことを責めてしまつて心が苦しくなります。そして、先生からの注意への反発につながってしまいます。この八ツ当たりがなくなると、他者も注意しやすくなるし、そのことで良くない言動に自分で気付きやすくなります。これらのことを身につけると、対人関係が穏やかに保てるようになると思います。

退園したら、頑張ろうと思つていることがあります。家では、母の手伝いをしたり、弟や妹の面倒をしっかりと見ることです。今まで頼られてもしてこなかったのですが、私が面倒をみることで母の助けになると思います。高校では、本当の友達を見つけ、毎日学校に通います。それは正しい友達を見つけ、正しい関わりをしたし、高校は留年があつてほぼ自己責任だからです。私がこの二つをクリアすれば、自分への明るい未来が待っていると思います。考え方の面では、とにかく前向きでポジティブな考えをすることです。私がポジティブになれば人が集まってくると思うし、心の乱れも少なくなると思います。人付き合いの面では、自分の思いや考えは適切な言葉で相手に伝え、人と間違つた関わり方を

しないことです。私は、思いを伝えるのが上手ではありません。この二つができたなら、家族や友人などのトラブルを防げると思います。もし、トラブルになってしまうと、入園前と同じ失敗を繰り返すことになるので、そうならないよう頑張ります。最後に私から伝えたいことがあります。

家族へ。今まで本当にごめんなさい。心配かけたり、傷付いたり、裏切つてごめんなさい。高校受験に合格するので、この成長した私と、また一緒に暮らして下さい。

原籍校の先生へ。たくさん心配をかけて、迷惑をかけてごめんなさい。受験に合格したら、また会いに行かせて下さい。

寮の先生、もみじの先生へ。心配や迷惑をかけてごめんなさい。残りの学園生活も、よろしくお願ひします。退園してもここでの生活を忘れず、自分を見失わないようにします。

★来場者アンケート

【保護者・家族】

・ここに来る前は、色々としんどい思いもあり、うまく自分の気持ちを伝える事が出来ず、反抗することもあつたけど、この発表会を見て、す



ごく成長しているすがたに感動しました。親として、子供の気持ちを上手に聞いてあげる事の出来なかった自分の事も反省しました。家に戻ったら、こんどこそ、しっかり気持ち聞き、わかりあえる様になんぼりたいと思います。

・一人一人が生き生きとして、発表はすてきでした。いつもと違う緊張をしていることが想像されます。察ごとの発表も、一緒になって作りあげた感があり、よかったです。

【原籍校】

・今まで人前で話をするのは苦手だと思っていたので、今日、堂々と大きな声で発表している様子を見て、驚き、うれしく思いました。どんな生活を送っているか気になっていましたが、自分らしく生活できている部分を見ることができ安心しました。

・合唱曲「大切なもの」は、原籍校のクラスで同じ曲を歌いました。不思議なつながりを感じ、とてもうれしく思いました。



◆金融経済教育

金融機関の役割について、銀行の例をもとに関心を高めるとともに、金融の働きについて考える。また、お金の流れやライフプラン、金融犯罪について理解し、自立した生活を営む態度を育てることを目的としています。

講師 海田町社会教育委員

安永 勝次様



しくんが学んだこと

この講演を聞いて分かったことは、お金を使うということとは、とても責任を負うということです。だから、今回体験した一億円の重みは、これから二度とないと思うので、いい思い出となりました。僕が学んだことは、社会に出た時に、自分のために何ができるかということ。今、僕には、高校受験という一つの大きな壁があります。僕が今できることは何かと考えると、まずは勉強だと思えました。この様に、今、自分に何ができるのかをいつも考えるようにしていきたいと思えました。今日は、学ばせていただき、ありがとうございました。



◆東広島マツダ会とクリスマス交流

Mさんの感想

私たちのためにクリスマス会を開いてくださり、ありがとうございました。少ない時間でしたが、私たちのダンスを見て下さったり、寮内の説明を最後まで聞いてくださったりと、本当にうれしかったです。これから年も明け、すぐに学年が上がります。今後も様々な行事などでお話ししたいと思うので、よろしくお願ひします。

Nくんの感想

今日は、僕たちのために交流会を開いていただき、ありがとうございました。いろんなお話を聞いて、笑顔でダンスも見ていただき、とても楽しい時間を過ごすことができました。また、豪華な夕食もプレゼントしていただき、これから食べればいいのか、悩むほどたくさんあり驚きました。今日は、貴重な体験を本当にありがとうございました。



◆とんど行事

Pくんの感想

とんど行事に参加したなかで、心に残ったことがあります。それは、とんどを作るところです。竹で土台を組んだり、丸太を切って運んだりしました。孟宗竹は重たくて、運んだり組んだりするのがしんどかったけど、とてもやりがいのある作業でした。そして、とんどに火が付いたら、下から上に向かって勢いよく燃えていくところが、とても心に残っています。それと同じように、とんどに付けた書き初めが高く舞い上がり、とても気持ちが良かったです。書初めは、高く舞い上がるほど字が綺麗になるといふ言い伝えがあります。かなり離れた場所で見えていましたが、燃え盛る炎の熱さが全身に伝わりました。とんどが燃える火にあたりると、無病息災になると言われていますが、とても熱かったです。熾火となると、お餅を焼きます。お餅は、みんなで協力しながら焼きました。自分が先に食べるのではなく、気を配って先生方にもお餅を配ったりしました。一生懸命に作ったお餅だったのでとてもおいしくて、これからはがんばろうと思いました。また、これからは寮の中で、協力す

ることを続けていこうとも思いました。それと、とんどをする意味も学びました。とんどの火で焼いたお餅を食べると、健康で一年間を過ごせるようにとの願いが入っています。僕は受験があるので、とんどの力に頼りすぎず、しっかり予防もして、受験に臨もうと思います。



◆スキー合宿

Qくんの感想

僕は、二泊三日のスキー合宿に参加させてもらいました。一回目の説明会や事前学習などがあってから、スキー合宿が楽しみでした。気持ちだけがうきうきしていて、生活の中で失敗し、個別の支援になりました。行事の前になって「やばい」と思い、焦っていました。でも、失敗を挽回することができ、スキー合宿に参加できるようになって、とても嬉しかったです。スキー合宿の中で決めた目標は、①テンションが上がらない

ように声かけをする、②任されている仕事は責任をもってする、③メリハリをつけて行動する、の三つにしました。僕は、用具係になりました。班長よりも責任があるとかわれて、自分でやりきることができると、とても不安でした。前日の結団式では、いよいよ出発だと思って、とてもうきうきしていました。そして、とても楽しみにしていた、スキー合宿当日が来ました。初日なので、係の仕事では、スキーウェアの点検などがありました。班のメンバーのペーシングに合わせ、声をかけながら確認をしました。スキーは、基礎・基本からやりました。礼儀・挨拶・マナーをしっかり考え、スキー場や宿舍での挨拶・マナーを守って行動することを意識しました。みどり荘の方から、大山の歴史などについて話してもらい、大山のことをしっかり知ることができました。二日目は、一日中スキーがありました。吹雪などで、自然の厳しさを自分の体で感じることもできました。スキーでは、調子に乗らないように自分をコントロールすることができました。とてもスキーは楽しかったです。しかし、昼食時にメリハリがつけられず、注意を受けてしまいました。だから切り

替えないと、一人だけ話を聞けていなくて、怪我になると思ったので切り替えました。三日目の最後に、係としての仕事がありました。投げやりにならないように、みどり荘の方々の気持ちを考え、借りた道具などの確認をすることなど、しっかり責任を持ってやり切りました。学園に帰るまで、けがをせずに帰ってこれて良かったです。僕は、スキー合宿をおして、二つできたことがあります。一つ目は、後先を少し考えられたことです。僕はスキーでスピードを落とせないのに、難しいコースに行こうとした時に、「このまま調子に乗っているとけがをしたりして、班の人や先生に迷惑をかけてしまう」と思いました。だから、自分の力にあったコースでスキーを楽しむことができました。二つ目は、係の仕事をやったことです。最後の日の点検で、みどり荘の方の気持ちも考えて、みんなの道具の点検をしっかりとすることができ、役割を果たすことができました。これからもできたことは続けて、もっとレベルの高い生活をしたいです。

Rさんの感想

私は、スキー合宿に参加するにあ

たって、説明会で「スキー合宿に行けるような生活をしてください。」と、先生から言われていたのに、私はその言葉を意識しておらず、生活の中で失敗をしてしまいました。行けない確率が高くなり、行ける確率を上げるために、生活を人一倍努力しました。その結果、合宿に参加することができました。いざ行けることになると、滑れるか、けがをしないか、という不安な気持ちでスキーに行きました。ウェアのサイズ合わせをする時に、初めての係での仕事がありました。その仕事は、ポケットに何も入っていないか、傷や汚れがないかなどを調べることでした。正直私は、「そんなの簡単だ」と最初は思っていたけど、「各自で確認してください」などの指示が通らないと、とても難しく、ウェアを着るスピードも各自で全然違うため、とても大変でした。でも、寮生が傷をつけてしまったものも、用具係として謝罪をしに行くことができました。そして、いよいよスキー場に滑りに行きました。最初に、基本姿勢やこけ方の練習をしました。「そんなこと、わざわざする必要はないのではないか」と思っていたけど、後々「やっついてよかった」と、思い

ました。一日目は、基本が大切だと言う事が分かりました。二日目は、滑ることに慣れてきて、一日目よりも険しいコースにたくさん行きました。チャンピオンコースといって、上級者が行くコースも滑りました。

そんな中で、私はとても良いなと思ったことがあります。それは、誰かが転んだ時には「大丈夫？」とみんなが声をかけ、誰かが遅れても文句を言う人がいなくて、むしろ「頑張れ！」と応援していました。二日目は、周りに合わせ、周りを見る事が大切だと分かりました。三日目は、最終日と言うこともあり、スキーをする時間は短かったけど、集中して取り組みました。朝の生活で失敗をして注意を受け、心が不安定な状態で滑りに行きました。途中で、寮長から「切り替えないと、大きなけがや事故につながる」と言われ、気持ちを切り替えていくことができました。三日目は、気持ちを切り替えることが必要だと分かりました。三日間のことを『楽しかった』で終わりにするのではなく、課題と向き合うためにも、普段の日常でも生かしていきたいです。



〇みどり荘のみなさんへ

Sさんの感想

私たちのために、スキー道具などの準備など、沢山の手助けをしていただきありがとうございます。私は、スキーが初めてで怪我をしないかとても不安でした。しかし、整備された安全なスキー道具のおかげで不安も飛んでいき、安心してスキーを楽しめました。食事では、ジンギスカンやカニ鍋などが食べられたし、大山でしか食べられないものもあり、食事で疲れを取ることができました。また、大山の歴史について話していただき、江戸時代の大山寺にはとても権力があつたことに驚き、大山について知らない話を聞いて楽しかったです。本当にありがとうございます。



◆性教育講座

性を興味・欲求のみの側面ととらえることなく、正しい知識・理解を深める。その中で、自分を大切にし、

相手を思いやる性の在り方を考えることができるようになることを目的としています。

講師

県立広島大学 保健福祉学部

看護学科 沖西 紀代子先生

Tさんが学んだこと

今日は、私たちのために性教育講座をしてくださり、ありがとうございます。私は、今まで自分の誕生日について深く考えたことがありませんでした。「二歳大きくなったな」くらいのものでした。しかし、今日の講座の中で、「誕生日」というのは、私が生まれてきた奇跡の日なんだと分かりました。私にとっても、私の家族にとっても、大切な記念日だと分かりました。これまでの私の生き方は、「自分なんて、どうでもいい」というものでした。しかし、それでは自分の命も、他の人の命も大切にできないと思いました。自分を大切にすると言うことは、他の人も大切にでき、更にこれから生まれてくるかもしれない自分の子どもを大切にできると思うことではないかと思えます。今日の講演で分かったことや思ったことを心に刻んでお

て、一日一日を大切にしていって、たつた一つしかない命を守っていこうと思えました。



◆きぬ川学院での研修を終えて

指導専門員 湯尻めぐみ

私は五日間、栃木県にある国立きぬ川学院での「全国自立支援施設職員研修」に参加しました。年度初めに、この研修に参加できると決まっていたから、小舎夫婦制で寮を運営しているきぬ川学院の見学、心理教育や支援方法について学べることに、他施設の方と情報交換等できると思い、とても楽しみにしていました。

講義1

「被害を受けた子どもと支援者のための心理教育 My Step」

この講義では、トラウマに関する基礎知識や発達への影響、支援者に何が起きているのか、支援者に対してどのような支援をしていくのかを学びました。特に、子どもが落ちていない状態であった時に、「イライラしていたように見えたけど、何かあった？」と聞き、子どもが認

めた時には、「イライラしていたんだね」（共感）や、「そんなことがあったら、イライラするよね」（妥当性評価）と言った、声掛けをするとうまいようです。また、子どもにイライラした時に、いかに対応していくかを考えさせることが必要だと学びました。例えば、呼吸法（長く息を吐く）、筋弛緩法（体の各部位に力を入れて緩める）、イメージ法（安心・安全を感じられる場面をイメージする）があることを学びました。

講義2

「性暴力被害開示への初期対応」

この講義で特に印象に残ったのは、「子どもの性暴力被害についての聴取」についてでした。実際に、「面接者、子ども役、観察者になり、ロールプレイを行いました。私は、観察者役でしたが、面接者と子どもの面接を見てみると、両者の関係がとても重要だと思いました。また、子ども役の受講者が、自己開示したくなるというコメントもありました。反応の仕方にも工夫が必要で、評価的な反応（その通りだ、それは違う）や、感情的な反応（かわいそうに！つらかったね！）ではなく、誇張のない冷静な反応（そうか、そう思っ

ているんだね、それはつらいね）が、良いことが分かりました。また、「アイメージページ」を使うことも大切だと学びました。

講義3

「距離感のワーク」

この講義は、きぬ川学院に入所した子どもが必ず学び、学院の職員が周知しているワークで、私たちも実際にやってみました。講義の初めに、パーソナルスペースについて実践しました。「担当児童を想像して、前に歩いて来て下さい」と言われ、職員に向かって歩いてみました。すると、私と職員の人の感覚は六十七cmでした。他の人でやってみると、五十cmくらいの人もいれば、一m以上の人もいました。パーソナルスペースは、人種や文化、性別によっても違うのですが、近すぎたり遠すぎたりすると、相手に誤解を与えてしまうことを学びました。また、スキップについては、日本では習慣がほとんどなく、海外でもスキッププだけに頼って関係を作ることはないと言われていました。しかし、自分の気持ちを態度だけではなく、言葉を使ってコミュニケーションを図ると良いと児童に教えています。集

団生活をこれからする子どもにとって、事前に距離感について指導していくことは、とても必要で、広島学園でも、日々の生活の中で学んだことを参考にしながら、支援を続けていこうと思いました。

家庭寮での実習

私は、きぬ川学院の特色である「小舎夫婦制」の寮実習に興味を持っていました。「小舎夫婦制」の生活を通して、家庭的な雰囲気の中で、規則正しい集団生活を営ませ、学院全体を花と緑の美しい自然環境に整え、児童の情性を育むことを目標にしていると聞き、見学するのをとっても楽しみにしていました。まず、寮長と話をしました。寮長は、「教員になりたかったが、施設の方が天職だと思った」と言われていました。寮の子どもたちも、「先生は、疲れた時間も疲れを見せず、私たちに接してくれる」「和やかで居心地がいい」等と言っており、職員と子どもの信頼関係が構築できていると感じました。

子どもがリラックスできるようにBGMを流したり、指導員室にあるソファの配置等にも工夫があったことに驚きました。広島学園は、夫婦制ではありませんが、「子どもを認め

る」という点では同じであると感じました。日々の生活において、子どもの悪い部分が見えがちになってしまいがちですが、子どもと関わり、子どもと一緒に学び、「厳しさと優しさ」を持った職員になりたいと痛感しました。

今回五日間の研修に参加し、他県の先生方とも出会い、情報共有をすることができました。研修で出会った七人は、みんなに言えることですが、「子どもを成長させたい」という思いが、ひしひしと感じられました。私自身、児童自立支援施設での勤務は二年と短いのですが、さらに学び、児童の成長に携わっていきたいと思います。

《ホームページ》

広島県のホームページの中に、「県立広島学園」のページがあります。支援者の方との交流や学園の行事の様子などを掲載しています。ぜひ、ご覧下さい。

(<https://www.pref.hiroshima.jp/sst/hiroshimagakuen/>)

